参考資料③

プレスリリース

平成19年６月20日
農 林 水 産 省

平成１８年度第３回安全・安心モニター調査結果について

農林水産省では、食品の安全性や家畜衛生・植物防疫に関するリスクコミュニケーションの効果を調査するため､安全・安心モニターに対するアンケート調査を実施しています。
今回、総合的病害虫・雑草管理（ＩＰＭ）の認知度等に関するアンケート調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。

〔調査の目的〕[1]一般的な農産物への関心事項と生産者への要望
[2]総合的病害虫・雑草管理（ＩＰＭ）についての認知度と要望
を調査し、今後のリスクコミュニケーションに活用
〔調査対象者〕安全・安心モニター1,713名（満20歳以上で国内居住者）
〔実施時期〕平成19年２月21日～３月６日（当該期間中に性別・地域毎に実施）
〔調査方法〕インターネットによるアンケート調査
〔有効回答者数〕1,440名

〔概要〕

[1]一般的な農産物への関心事項と生産者への要望

野菜や果物などを購入する際、「価格」または「安全性」を重視する方がそれぞれ約３割でした。
また、生産者に望む取組として最も多かったのが、「安全性の高い農産物を生産する農業」（66%）でした。

[2]ＩＰＭについての認知度と要望

「総合的病害虫・雑草管理」または「ＩＰＭ」という言葉を聞いたことがない方は78%であり、内容まで知っている方は5%でした。
また、アンケートの中でＩＰＭについて説明した上で、生産者に期待することとして多かったのが、「農薬の使用を抑えて欲しいので取り組むべき」（59%）、「取り組むべきだが値段が高くなるのは困る」（26%）でした。

〔その他〕
その他の設問については、回答結果をご覧ください。
また、設問によって説明を加えていますので、ご参考にしてください。

問合せ先
農林水産省消費・安全局消費者情報官
担　当：鈴木　古川　山本
代　表：03(3502)8111（内線4600）
直　通：03(3502)8504
当資料のホームページ掲載先URL
http://www.maff.go.jp/www/press/press.html

平成１８年度安全･安心モニター（第３回）　回答結果

職業	ご自身の職業についてお答えください。		
①	食品に関連する仕事についている	15%	（回答者数）
②	その他	85%	1,440

問1	あなたは野菜や果物などの農産物を購入する際、何を重視しますか。当てはまるものを1つ選んでください。		
①	味	14%	（回答者数）
②	価格	32%	
③	安全性	30%	
④	見た目の良さ	8%	
⑤	ブランド（産地）	12%	
⑥	その他	4%	1,440

問2	あなたは生産者にどのような農業に取り組んで欲しいと思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。		
①	田んぼや川の生き物など自然環境への影響に配慮する農業	18%	（回答者数）
②	安全性の高い農産物を生産する農業	66%	
③	消費者への生産情報の提供に取り組む農業	6%	
④	農産物の安定供給を目指す農業	9%	
⑤	その他	1%	1,440

問3	あなたは病害虫や雑草の「防除」と聞いて思い浮かぶのはどのようなことですか。当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）		
①	病害虫や雑草を防除すれば、農産物をたくさん収穫することができる	31%	（回答者数）
②	日本は温暖で、梅雨など雨が多いため、病害虫や雑草が発生しやすく、防除が欠かせない	37%	
③	主な防除の方法は、農薬を使うことである	59%	
④	防除方法の例として、害虫の天敵を利用したり、防虫ネットを張ることなどがある	44%	
⑤	「防除」という言葉を聞いたことがない	8%	
⑥	その他	2%	1,440

～問３の説明～

日本は温暖多雨・多湿なので、病害虫が発生・まん延しやすい環境にあります。農業においては同じ種類の植物を田畑で栽培するため、その植物にとっての害虫が増殖しやすい環境と言えます。病気についても同じことが言えます。また、安定した収穫を得るためには、雑草も取り除く必要があります。

消費者に信頼される良質な農産物を安定的に供給するためには、農産物の病害虫や雑草の発生を防ぎ駆除する必要があります。このことを「防除」と言います。防除技術が乏しかった江戸時代には、水稲の害虫であるウンカの大発生により飢饉をもたらし、多くの犠牲者が出ました。

農薬による防除は、有効性、効率性、経済性の面で他の防除手段より概して優れています。そのため、現在、農薬の使用が病害虫・雑草防除の主要な手段になっています。しかしながら、環境への配慮などから農薬を使わない防除手段の利用も増加しています。

問4	防除の考え方の1つに「総合的病害虫・雑草管理（IPM）」があります。あなたは「総合的病害虫・雑草管理」または「IPM」という言葉を聞いたことがありますか。当てはまるものを1つ選んでください。		
①	聞いたことがあるし、内容も知っている	5%	（回答者数）
②	聞いたことはあるが、内容は知らない	17%	
③	聞いたことがない	78%	1,440

～問４の説明～
　総合的病害虫・雑草管理（ＩＰＭ）は、天敵などの生物的防除、防虫ネット、粘着板などの物理的防除と農薬による防除など様々な手法を適切に組み合わせ、病害虫や雑草の発生を一定のレベル以下に抑制するという考え方です。その目的は、農業生産の安定性や効率性に配慮するとともに、防除に伴う環境への負荷をより低減することです。
　農林水産省は、「総合的病害虫・雑草管理（ＩＰＭ）実践指針」を公表するとともに、都道府県におけるＩＰＭの実践度を農業者自身で確認できるチェックシートの作成やＩＰＭ実践地域の育成を支援しています。
（ウェブサイトのＵＲＬ：http://www.maff.go.jp/syohi_anzen/ipm/jissen_sisin.html）

一口メモ　「IPM」は「Integrated Pest Management」の略称です

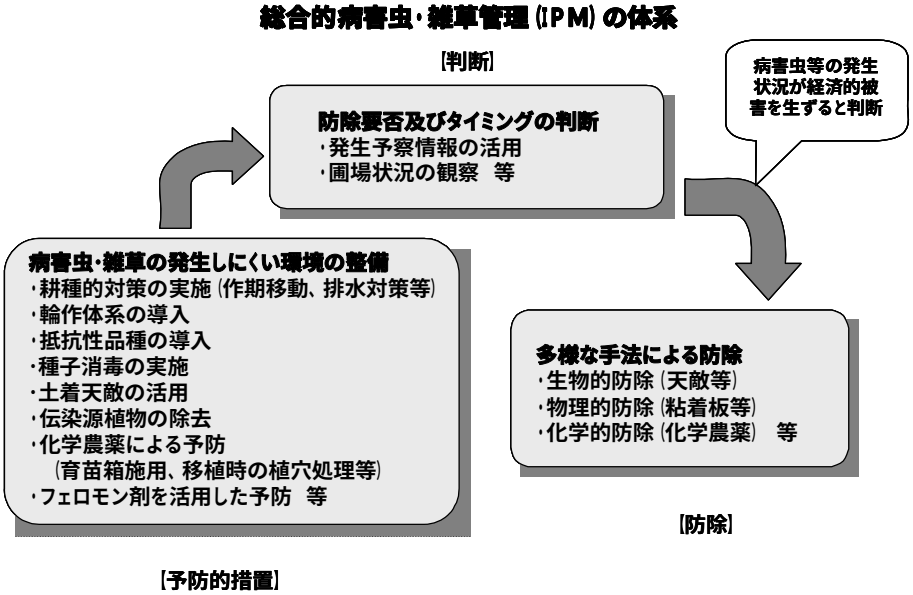
問5	総合的病害虫・雑草管理（IPM）とは、食の安全や環境に配慮しながら、安定して農産物を生産するための防除の考え方です。次のIPMの取組のうち、農家に実践して欲しい病害虫や雑草の管理方法を3つまで選んでください。（複数回答可）		
①	同じ土地で同じ農産物を連続して生産しない	19%	（回答者数）
②	田畑やその周辺にもともといるクモなどの天敵（土着天敵）に害虫を食べさせる	57%	
③	田畑周辺の雑草を除草する	23%	
④	自分の田んぼや畑をよく観察する	36%	
⑤	都道府県が発表する病害虫の発生予報を確認する	18%	
⑥	病害虫や雑草により被害が出そうだと判断したら防除を行う	22%	
⑦	防虫ネットや粘着板など物理的な手段で防除を行う	39%	
⑧	害虫を食べる天敵を守るため、天敵に影響の少ない農薬を利用する	39%	
⑨	草刈り機で除草を行う	14%	
⑩	特にない	2%	
⑪	その他	2%	1,440

～問５の説明～
　ＩＰＭでは、
　①　病害虫や雑草が発生しにくい環境を整えること
　②　病害虫の発生状況をよく確認し、防除を行うか、行わないかを適切に判断すること
　③　多様な防除手段の中から、適切な手段を選択して講じること
　の３点に取り組むことが基本です。

①あらかじめ病害虫や雑草が発生しにくい環境を整えると、病害虫や雑草の発生を抑えやすくなります。
　同じ土地で同じ農産物を連続して栽培すると、土壌中の病原菌が増加したり、害虫が定着したりするので、生育が悪くなります。その対策としていくつかの異なる農産物を順番に栽培する輪作を行います。
　また、田畑やその周辺には害虫を食べるテントウムシやクモなどが生息しています。農林水産省は、こういった天敵をうまく活用するための調査、情報提供に取り組んでいます。

②気候の変化などにより、毎年決まった時期に同じ病害虫が発生するとは限りません。そこで、病害虫の発生状況を確認せずに定期的に防除を行うと、効果的な防除が行えないばかりか、不必要な防除を行うことになります。このため、病害虫の発生状況を確認し、防除の要否、そのタイミングを適切に判断する必要があります。
　いつ、どのような病害虫が、どれくらい発生するかなどの予測（発生予察情報）を都道府県が公表していますので、防除の判断に当たっては、この情報を活用するとともに、自分の田畑をよく観察することが重要です。

③防除を行う場合、農薬だけでなく天敵（生物農薬）などの生物的防除、防虫ネット、粘着板や機械除草などの物理的防除を組み合わせて適切な防除手段を選択することが重要です。
　なお、ＩＰＭでは、病害虫や雑草の発生・まん延の防止、農産物の収量や品質の確保、あるいは農業者のコスト・労力面での負担軽減のため、農薬の使用も重要な防除手段の１つと考えます。ＩＰＭでは農薬の使用が必要な場合には、周辺に飛び散らない散布方法や薬剤（例えば粒剤）の選択、天敵に影響の少ない農薬の使用などの環境負荷の低減に取り組むこととしています。
　（参考：ＩＰＭ体系図）



問6	国内の生産者や産地がIPMに取り組むに当たって、どのようなことを望みますか。当てはまるものを1つ選んでください。		
①	IPMに取り組むことにより、農産物をたくさん生産して欲しい	10%	（回答者数）
②	IPMに取り組むべきだが、値段が高くなるのは困る	26%	
③	農薬の使用を抑えて欲しいので、取り組むべき	59%	
④	農薬さえ使わなければ、IPMに取り組まなくても良い	2%	
⑤	特にない	2%	
⑥	その他	1%	1,440

～問６の説明～
　ＩＰＭでは、最適なタイミングで手段を適切に選択し、防除を行わなければなりません。ＩＰＭに取り組むことで、病害虫・雑草の発生やまん延を防止するとともに、必要以上の農薬使用などの無駄を少なくすることができます。つまり、ＩＰＭによって、生産の安定と環境や人の健康への配慮を両立させた農業生産が普及・定着するものと考えます。
　また、ＩＰＭに取り組むことにより、作物によっては天敵（生物農薬）や防虫ネットなどの防除資材にかかる費用が高くなる一方、農薬散布の回数を抑えることで防除のための労働が少なくなるというメリットがあります。

問7	より多くの消費者にIPMなどの生産者や産地の取組を知っていただくには、どのような方法が良いと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）		
①	インターネット	51%	（回答者数）
②	説明会やシンポジウム	24%	
③	パンフレットなどの印刷物	22%	
④	テレビ、新聞、雑誌	75%	
⑤	スーパーなどの小売店での掲示	61%	
⑥	農産物にロゴやマークを付ける	47%	
⑦	情報提供は必要ない	0%	
⑧	その他	2%	1,440

～問7の説明～
IPMの取組を広げていくため、農業者だけでなく消費者や流通関係者にIPMのことを理解していただくことが必要です。このため、今後、消費者を始めとする国民の皆さんへの情報提供に努めていくこととしています。

（注）小数点以下第1位で四捨五入しています。
四捨五入の関係で単一回答でも合計が100%にならないこと、有効回答があっても0%になることがあります。